



厚生労働省委託事業：感染症危機管理リーダーシップ人材育成事業

令和8年度感染症危機管理リーダーシップ研修(長期)

(寄稿)危機管理・運営局 企画調整部政策研究課研究開発連携室 蒲東真州

次なる感染症危機に備え、公衆衛生行政、医療提供体制、感染症疫学や臨床等に関する専門的な知見や経験を有する既存の多様な職種の感染症専門人材に対し、地域における将来の感染症危機への対応においてリーダーシップを発揮する人材として、感染症危機管理に必要な多様かつ分野横断的な知識やスキルの修得や維持・向上を図ることを目的とし研修を実施しています。今回は7月の研修内容をご紹介します。



机上演習



浦西由美先生
(徳島県美波保健所 副所長)



演習の様子

6月26日にJIHS内で机上演習が開催され、IDCL※1 長期研修生、FETP※2、CMTP※3、IDES※4、京都大学ヘルスセキュリティセンター、IDCL修了生が参加しました。感染症危機を想定したシナリオを元にディスカッションを行い、感染症危機時における組織的な動きや対応、危機管理体制の構築・維持そしてその重要性等を学びました。

※1感染症危機管理リーダーシップ研修 ※2実地疫学専門家育成コース
※3災害危機管理専門家育成コース ※4感染症危機管理専門家養成プログラム

統括庁OJT

「感染症危機における「行動する」パブリックヘルス-県庁の病床調整・空港検疫・ワクチン啓発の現場から-」
講師：吉村健佑先生(千葉大学病院 次世代医療構想センター長 特任教授)



吉村健佑先生(写真左から2番目)と
IDCL長期生

6月2日に内閣感染症危機管理統括庁の研修へ参加しました。研修では、千葉大学病院吉村健佑先生より講話があり、千葉県における新型コロナウイルス流行時の対応を振り返りました。公衆衛生の本質は「課題を分析すること」ではなく「社会課題の解決に向けて行動すること」にあると説明いただきました。また、次の感染症危機に備えるためには、平時から人材育成、データ活用、訓練、物資備蓄、関係機関の連携体制を整備し、公衆衛生専門職が現場で主体的に行動することが求められると平時からの備えの重要性をご講義頂きました。

外部研修



左から千葉県衛生研究所感染症学研究室の門倉圭佑様、折目郁乃様、石田篤史様、右3名はIDCL長期生

6月22日、7月1日及び2日の合計3日間に渡り、千葉県衛生研究所で「感染症発生時における疫学調査等に係る職員研修」が行われました。研修では地方自治体における同研究所の役割や業務内容の説明から始まり、施設の見学及び業務の法的根拠についての講義などが行われ、その特性を十分に理解してからワークショップに参加したことで、感染症危機発生時における同研究所の役割や行動を実践的に学ぶことができました。